民話をデジタル紙芝居にして交換しよう（中学校）

広島大学附属三原中学校教諭　松尾砂織　朝倉匡夫　居川あゆ子　桑田一也
広島大学大学院教育学研究科　深澤　清治　松浦伸和
e-mail:sorry@hiroshima-u.ac.jp

１．はじめに

本研究は広島大学附属三原学園の幼小中一貫教育力を基盤とした国際交流学習のためのカリキュラム開発であり，本発表はそれをめざす具体的な取り組みとして，教材・単元開発を目的とした授業実践の一例である。本学園では，2003 年に研究開発校指定を受けて，国際コミュニケーション能力を育成するための新領域「国際交流学習」を設置・試行を始めた。その中で，外国についての知識蓄積型の国際理解にとどまらず，教室という生徒にとって最も具体的場面において実際に世界の人々と直接的な交流活動を行いながら，双方向型の多文化理解をめざすこと，またそれを通して自らの文化をよりよく理解し，大切にする意識を育てることをねらって取り組みを続けてきた。その目的達成のため一昨年 4 月に幼稚園，小学校，中学校そして大学からプロジェクトメンバーを募り，国際交流学習開発部会プロジェクトを立ち上げ研究を開始し，研究に際してテーマを次のように設定した。

> 研究テーマ
> グローバル社会に生きる日本人としての基礎的な国際的コミュニケーション能力の育成を図る幼小中の発達段階に応じた学習の開発

ここでねらいとするのは，園児・児童・生徒を取り巻く社会のグルーバル化が著しいこの 21 世紀において，世界の中の日本に生まれた私たちが幼小中段階でどのような国際的コミュニケーション能力を身につけるべきかを考えることである。その能力養成のため，幼小中の発達段階に応じた教材・単元開発をより具体的に進めた。幼小中では，広島大学への留学生との学習を発達段階に即した方法で交流を行ったり，中学校では，インターネットを活用した姉妹校を含む様々な海外の学校と交流学習を行ったりした。インターネットを活用することによって，交流学習の場は増え，発信だけにとどまらない双方向的な交流活動が可能となった。

２．単元の目標と実践内容

生徒が幼小より培った多文化理解をさらに深め，姉妹校を含む様々な海外の交流相手校との交流学習を前提とした国際交流学習として，中学校の全学年に「Global citizenship の時間」を導入した。ここではインターネット上に紙芝居サイトを立ち上げるに至った中学校 1 年生の実践概要を報告する。

【学習内容】

学　　年：広島大学附属三原中学校 1 年生
単　元　名：「民話を紙芝居にして交換しよう」
単元の目標：

> ①他国の民話を英語で読み，その内容を理解することができるようにする。（多文化理解）
> ②紙芝居，絵本，民話の表現構造や 4 コマを基本とした構図を理解させる。（多文化理解）
> ③グループで紙芝居を作り，自国の言葉で表現させる。（自国の言葉での自己表現力）
> ④交流相手校と TV 会議システムやインターネットを使って紙芝居を交換し，コミュニケーションを進んでとろうとする意欲を持たせる。
> （コミュニケーション能力）

指導計画（全 32 時間扱い）

第１次　インターネット「デジタル絵本サイト」で世界の民話を読もう（6 時間）
第２次　紙芝居，絵本，民話の表現構造を学ぼう（4 時間）
第３次　民話を紙芝居にして，日本の話を伝えよう（12 時間）
第４次　交流相手から学ぼう（４時間）
第５次　交流相手と一緒に民話を鑑賞しよう（6 時間）

【単元について】

単元「民話をデジタル紙芝居にして交換しよう」の学習を通して生徒に身につけさせたいことは，多文化に関心を持ち，積極的にかかわろうとする態度とコミュニケーション能力の向上である。21 世紀に生きる子どもたちにとっては，言語や文化が異なる国々に住む人々とコミュニケーションをとりながら，お互いの交流を深め，共生しようとする態度が必要となる。日本の民話を紙芝居として扱うことは，生徒にとって身近で,親しみやすい題材であり,また，紙芝居を交換した交流学習を通して，コミュニケーション能力は向上するとともに，物語の背景にある言語や文化への関心が深まり，積極的に多文化と関わろうとする態度が育つ題材である。

【指導に関して】

指導にあたっては，紙芝居を読んだ交流相手からの感想や意見を活かすことや，分かりやすく相手に伝えるためにはどう修正を加えていくべきかを考えさせる行程で，他者の意見を受け入れ，理解することの大切さを感じさせる授業展開にした。また，学習と向き合えるように毎時間「自己評価カード」で学習の記録をとるように指導した。

３．概要

指導において一番力を入れたことは，日本の民話を知らない人たちに分かりやすく伝えるにはどのような表現方法が必要であるかを気づかせることと，紙芝居の基本的な表現構造を理解させることであった。そのための指導に多くの時間を費やしたが，同時に紙芝居のデッサン作りや英訳にもかなりの時間をかけた。そして，作成した紙芝居の絵をスキャナーでパソコンに取り込み，インターネット上に載せる作業は指導者側で行った。ネットに掲載するにあたっては JEARN（グローバル推進機構）に協力をしていただき，Falk tale project の中の「The Picture Story Show」として立ち上げ，読者から感想や意見を求めた。この感想や意見を集めるために姉妹校であるアメリカ合衆国のマーチン･ミドル･スクール，オーストラリアのキャサリン高等学校（2004.12.17 本校を来校),広島大学の留学生たちなど多くの方々からの協力を得た。生徒は，返ってきた様々な英文の感想を読み，そこに書かれたアドバイスや意見を元に，一度作成した紙芝居の絵と英文を再度作り直した。なお，アメリカの姉妹校からはアメリカで有名な民話を絵と英文で紹介する手紙が何通も届き，他国の物語を読む機会を得ることができた。

3-1　授業の実際

〈第１次〉

世界の民話を読むことで，多国の考え方に触れ，様々な考え方を受け入れる姿勢を持つことをねらいとして「デジタル絵本サイト」を自由に読ませた。また，日本の絵本や紙芝居の表現方法や構図を学ぶために，できるだけ多くの民話を読ませた。最終的に様々な絵本やデジタル絵本を読んだ後で，班で１つ民話を選んだ。カット数や表現方法の基本的な学習をした後に，班ごとにおおまかなデッサン，あらすじを日本語と英語で作成した。

〈第２次〉

班ごとで作成した紙芝居を見直し，全体の前で発表できるように短時間で打ち合わせをした後に，２～３つの班に紙芝居を発表させた。事前に紙芝居の絵はスキャナーでコンピューターに取り込み，プロジェクターを使ってパソコン教室にあるスクリーンに映した。パソコンの操作は指導者が行い，生徒は画面に合わせて英語か日本語のセリフを発表した。発表者以外の生徒は，あらかじめ示していた評価の観点に沿って評価カードの記入を行った。

〈第３次〉

個人で書いた評価カードをもとに，班内で意見交流をさせた。指導者は机間指導を通して，活発な意見交流を促したり，映像に関するアドバイスや気づきを伝えたりした。今回の発表の目的は，出来上がった作品に修正を加えることにあった。指導者は，出来上がった民話を日本人同士で見て，疑問に思うところ，分かりにくいところを明らかにさせ，初めて読む外国の生徒に少しでも理解してもらえるためにはどうしたらよいかを考えるように指導をした。

・絵がカラフルで分かりやすい。
・絵と文があっていない。
・不要なカットがある。
・絵の枚数が多すぎ，分かりづらい。
・話の内容がおもしろい。
・話がまとまっていて分かりやすい。

資料１　評価カードにある生徒の感想や意見(一部)

〈第４次〉

生徒が作った紙芝居を JEARN が管理するサイトに載せて，紙芝居を読んだ海外の生徒から感想文が返ってくるのを待った。同時進行で，姉妹校のマーチン・ミドル・スクール（アメリカ），交流校のオーストラリア，ザンビア，広島大学の留学生などに協力を仰ぎ，紙芝居を読んだ感想を手紙やメールで返してもらった。海外の生徒から返ってきた感想文のほとんどは英語で返って来ているが，日本語を学習中の学校からは英語と日本語両方の表記があったので，キーワードとなる単語を指導者側が提示しながら，感想文を読ませ，そこから分かったことや考えたことを個人で発表させた。

・紙芝居の内容が正しく伝わっていない。
・スペルミスが多い。
・おもしろい，楽しいと感じている生徒が多い。
・色づかいがはっきりしている方が好まれる。
・日本の文化や歴史など幅広く説明することを要求されている。

資料２　海外の生徒から届いた感想やコメントを読んだ本校生徒の感想文

The picture shows are great, very expressive and colorful. I have known some of these stories before, but they came alive when I saw your students' pictures.
I hope your students will tell us about drawing these pictures? What did you learn and what are you trying to share with us outside Japan?
What do these stories tell us about Japanese history and culture?
I would love to hear from your students.
From Ed New York City

資料３　N.Y の Ed さんからの感想

はじめまして。わたし　は　Chloe さん　です。十四　さい　です。ちゅうがく　に　なん　せい　です。
お　はなち　を　よみま　し　た。一ば　ん　す　き　な　おはなし　は　fire raccoon dog と the rolling rice ball. Your stories were great! I loved them! You are all really good at English.

My friends and I found them really fun and interesting to read. We enjoyed reading them thoroughly. You are all really talented drawers, your pictures were very colourful and pretty to look at your translation of the stories were very good, and the wording you used was flowing and easy to understand. I liked all of your stories they were great!　ありがとうございました。

3

資料４　オーストラリア Chloe さんからの感想

The Picture-story show

Produced by Mihara J.H.S in the 7th grade students

Please give us your comments after you read.
We are looking forward to your access.

資料５ インターネットにある本校のサイト

〈第５次〉

班で意見交流をした後に，感想をくれた生徒たちへ返事を考えせた。返事を書くにあたっては，中学校１年生レベルの英語で書ける範囲を超えていたので，電子辞書やインターネットの翻訳サイトを利用しての返事を書かせた。翻訳サイトを使用するにあたっては，その使い方の指導をした。手紙の返事には，次の内容に触れるように指導した。１つは，伝えたかったテーマを説明することで，もう１つは感想をくれた相手に対して自分の感想を含めた返事を書くこととした。返事はワードで打たせ，次時への学習課題として提示した。

3-2　授業を終えて

インターネットを活用することによって，海外の様々な生徒たちと交流する機会を得ることができたのはコミュニケーションを主とした学習をすすめる上では有効的であるように思う。毎時間生徒が書く「振り返りのワークシート」からも前向きな考え方をしている生徒が増えてきたように思う。

- 絵がうまいと褒められたのはうれしかった。英語は難しいけれど，返事が返ってくるのでまたやりたいと思った。
- 今度は，他の国の物語を知りたいと思う。
- 返事が返ってくるとやる気がおきる。またやってみたいと思う。

資料６　生徒感想文

4　成果と課題

資料６の感想文はほんの一例にすぎないが，インターネットを活用する学習活動が増えたことによって，より多くの国の生徒たちとコミュニケーションをとることができた結果，生徒たちの学習意欲は高まっているように感じる。これまでどちらかといえば，発信重視の学習から，双方向のコミュニケーション重視の学習へと移行することで，学習者の意欲は高まり，さらなる単元や学習開発が求められるようになってきた。今後ますますパソコンやインターネットを活用した学習を考える必要がある。

5　今後の展望

現在,紙芝居を見た生徒とは手紙やメールを使ってのいわゆる文通を継続している。生徒の様子を見ていると，メールを活用して意見交換をすることに抵抗を感じることもなく，送られてきた返事を読んでは，英語で返事を書いている。今後は，テレビ会議システムを利用した交流を考えているので，これまで以上にコミュニケーション能力の育成が求められる。そのためには，まず，コミュニケーションを支える自国の言葉での自己表現力を向上させることをねらいとした学習を展開させていきたいと考えている。

参考文献・資料

[1] WEB サイト「デジタル絵本サイト」
http://www.e-hon.jp/

[2] WEB サイト「The Picture Story Show」
http://www2.jearn.jp/fs/1151/index.html

4

[3] 松尾砂織，岡野佳子，松島英恵，江本繁子，岡芳香，奥井京子，中山貴司，林原　慎，居川あゆ子，桑田一也，深澤清治：幼小中一貫における国際交流学習の教材・単元開発（Ⅰ）広島大学学部・附属学校共同研究紀要,32, 23-31. (2003)

[4] 松尾砂織，洲濱美由紀，岡　芳香，加藤秀雄，杉川千草，朝倉匡夫，居川あゆ子，桑田一也，深澤清治，松浦伸和：幼小中一貫における国際交流学習の教材･単元開発－２－　広島大学学部・附属学校共同研究紀要,33, 139-147. (2004)

[5] 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校：「平成１６年度研究開発実施報告書」資料（その 1）平成 16 年度研究開発への取り組みに関する部会実践報告・教科構想,1-20(2004)